

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12343

研究課題名（和文）看護者対対象者の2者関係に基づく地域生活集団を対象とした看護モデルの開発

研究課題名（英文）Development of Nursing Model Focused on Community as Life Group Based on the Relationship between Nurse and Client

研究代表者

松下 光子（MATSUSHITA, Mitsuko）

岐阜県立看護大学・看護学部・教授（移行）

研究者番号：60326113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：研究者らの先行研究での経験に基づき作成した看護モデル案を保健師と検討した後に修正し、看護モデルを作成した。

開発した看護モデルの名称は、「看護者対対象者の2者関係に基づく地域看護実践展開モデル」である。図は、右に「実際の行動・働きかけ・かかわり」、左に「保健師の頭の中」、中央に「保健師の所属施設と保健師」を配置。「実際の行動・働きかけ・かかわり」は、上に支援関係者の施設・組織とその中に管理職とスタッフ、下に家族とその中に健康課題をもつ本人と他の家族員を置く。「保健師の頭の中」は、下から基盤としている考え、個をみる思考、全体をみる思考を重ねる。また、モデルの前提とする考え方などを文章化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

開発した看護モデルは、保健師活動を看護者対対象者という看護の基本構造を用いて説明するものである。この考え方に基いて実践をとらえることにより、住民や関係者一人ひとりとのかかわりを基盤として、個別の支援と地域全体をとらえた支援を考えるという、公衆衛生分野における看護活動としての保健師活動の特質やあり方を説明できる。

また、日本の行政保健師の実践に基いて作成しており、保健師の実践展開過程を一貫して検討できる本モデルは、保健師の現任教育や学生の基礎教育にも役立つ。現任保健師がモデルを活用して、自身の取り組みを充実・発展させることは、その地域の保健活動の充実であり、国民の健康生活に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：We completed nursing model through discussion with PHNs and among researchers about draft of nursing model that made based on our experiences in previous research. The name of nursing model is “practical development model of community and public health nursing based on the relationship between nurse and client”. Component drawing of model is as following; Action, approach and support of PHN placed right side of model. Thought of PHN placed left side of model. PHNs and Organization, department, section placed center of model. In the right side of model, manager and staff within the support organization placed upper part. Client and family member within the family unit placed lower part. In the left side of model, foundational thoughts placed at the bottom. Thinking for supporting client placed at the middle. Thinking for supporting community placed at the top. And we documented that assumed views of model and so on.

研究分野：地域・公衆衛生看護学

キーワード：保健師活動 看護者対対象者 2者関係 看護モデル 地域看護実践

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、地域生活集団を対象とした看護活動について、個人を対象とした看護活動と同様に、看護者対対象者という1対1の関係の中で展開される活動、すなわち図1に示すような成り立ちを基本構造において説明する看護モデルの開発をめざすものである。本研究では、図2に示すように、家族や地域生活集団も基本的には人が集まったものであり、保健師は看護活動として、一人一人の人に働きかけるものと捉える。

地域生活集団を対象とした看護活動というと、統計データに基づき、マスとして対象をみると思われがちであるが、保健師が働きかけているのは、統計データではなく、現実に存在する一人一人の住民、住民の健康や生活をともに支えるさまざまな専門職など、一人一人の間である。保健師が働きかける一人一人をすべて看護の対象者と捉えることにより、看護者対対象者という看護の基本構造である1対1の関係が、同時に、また、継時的に多数形成されて展開していく看護活動として、その成り立ちを説明できると考えた。

その考えのもと、平成26、27年度の2年間、挑戦的萌芽研究に取り組み、本研究の基盤づくりとして、保健師と援助対象者への聞き取りから4つの保健師の活動事例について、構造図を描いた¹⁾。本研究では、この挑戦的萌芽研究の取り組みをもとに、保健師の活動を説明したり、活動推進のために保健師の思考過程を支援したりできる看護モデル案を開発することをめざした。

本研究の着想の原点は、研究代表者が行政保健師として高齢者を在宅介護する世帯への家庭訪問援助を行う中で、学士課程で学んだ対象者1人を想定した看護の枠組みでは、対象世帯への援助を検討できなかった経験にある。そこで、博士課程では、自身の家庭訪問援助実践をデータとし、高齢者、家族、ホームヘルパーなどの関係者にかかわり、看護者対対象者という2者関係が複数形成される家庭訪問援助について検討した。そして、複数の2者関係の変化を構造図に示し、人と人とのかかわりの過程としての看護援助の特質を明らかにした²⁾。その後、保健師が地域生活集団を対象として実施する看護活動について、同様にその構造を描くことを次の研究課題と考えた。

国内では、保健師活動を説明する際に、個別と集団への援助は常に強調されるが³⁾、看護者対対象者という1対1の関係を基本概念として保健師活動を説明するモデル等はない。地域看護活動、公衆衛生看護活動を説明しようとする国外の理論やモデルの中では、カナダのKuligによる⁴⁾Original Community Resiliency Modelは対象となるコミュニティを一人一人の集まりとしているが、その個人への働きかけを説明するものではない。

保健師の活動は、そこに含まれる人と関係の多さから、非常に複雑なものであることは容易に想像できる。本研究は、その複雑な看護援助を可視化しようとする取り組みである。保健師活動を看護者対対象者という看護の基本構造に基づいて説明することは、看護活動としての保健師活動のあり方を明確にし、看護学の発展に寄与する。また、本研究は、保健師活動を説明する理論モデルであり、かつ、実践時に保健師の思考過程を促す実践モデルという両要素を含む看護モデルの開発を目指す。保健師活動を学ぶ学生にとって保健師活動を理解しやすいものとすると同時に、保健師の現任教育や保健師活動の充実・改善に役立つことが期待できる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域生活集団を対象とし、地域の健康課題の解決を目指して行われる看護活動である日本の行政保健師の活動について、看護援助の基本構造である看護者対対象者という1対1の関係を以てその成り立ちを説明し、かつ、保健師の思考過程を支援して活動推進に役立つ看護モデルを開発することである。

研究代表者らは、地域生活集団を対象とした看護活動である保健師の活動事例について、看護者対対象者の2者関係に基づいて構造図に描く取り組みを行ってきた。本研究では、これまでの取り組み経験をもとに看護モデル案を作成し、その案を現任の保健師等と検討して、看護モデルとして作成することをめざす。

3. 研究の方法

1) 研究者らの先行研究の経験に基づいた検討による看護モデル案の作成

研究者らは、先行研究において4つの保健師活動事例について2者関係を基盤としてその活動を説明する構造図を描いた。その経験を通して保健師活動について考えたことに基づいて、研究者間で14回の検討を行い、図と説明文からなる看護モデル案を作成した。

2) 看護モデル案を用いて過去の活動事例を説明できるか、現在及び今後の活動を検討できるか

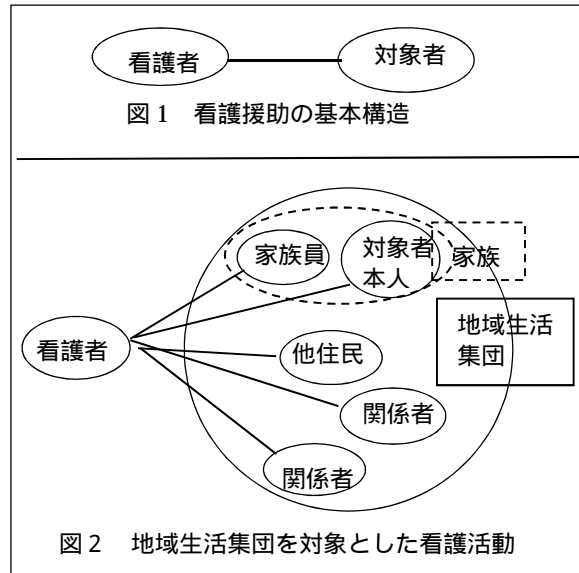


図2 地域生活集団を対象とした看護活動

について現任保健師と検討

1) で作成した案を保健師に示し、過去の活動を説明できるか、これからの取り組みを検討できるかという視点で検討会を行い、その後の研究者間の話し合いにより看護モデル案を修正した。保健師との検討会は3県で計14回開催。県保健師9名、市町村保健師7名、計16名が参加した。検討した活動事例は11事例、各2回ずつ検討した。保健師との検討会と研究者間での検討を繰り返し、看護モデル案を修正し、最終的な看護モデルとした。

4. 研究成果

作成した看護モデルの名称は、「看護者対対象者の2者関係に基づく地域看護実践展開モデル」である。図は、右に「実際の行動・働きかけ・かかわり」、左に「保健師の頭の中」、中央に「保健師の所属施設と保健師」を配置した。「実際の行動・働きかけ・かかわり」は、上に支援関係者の施設・組織とその中に管理職とスタッフ、下に家族とその中に健康課題をもつ本人と他の家族員を置く。「保健師の頭の中」は、下から基盤としている考え、個をみる思考、全体を見る思考を重ねる。個をみる思考と全体を見る思考の中は、現状のアセスメントとめざす姿を置く。また、モデルの前提とする考え方などを文章化した。

文献等

- 1) 研究代表者 松下光子：看護者対対象者の2者関係に基づく地域生活集団を対象とした看護活動の構造(課題番号:26671040)平成26~27年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)挑戦的萌芽研究 研究成果報告書、平成28年3月。
- 2) 松下光子;家族介護にかかわる看護援助の構造に関する研究;千葉看護学会誌、4(1)、8-14、1998。
- 3) 安齋由紀子、酒井太一、佐藤憲子;わが国における保健師活動のモデル・理論に関する文献レビュー、;看護研究、38(6)、443-452、2005。
- 4) Judith C. Kulig; Community resiliency: The Potential for Community Health Nursing theory Development; Public Health Nursing, 17(5),375-385,2000.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安田 貴恵子 (YASUDA Kieko) (20220147)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	
研究分担者	田村 須賀子 (TAMURA Sugako) (50262514)	富山大学・学術研究部医学系・教授 (13201)	
研究分担者	山田 洋子 (YAMADA Yoko) (50292686)	岐阜県立看護大学・看護学部・教授(移行) (23702)	
研究分担者	梅津 美香 (UMEZU Mika) (50326112)	岐阜県立看護大学・看護学部・教授(移行) (23702)	
研究分担者	大井 靖子 (OHI YAsuko) (60326121)	岐阜県立看護大学・看護学部・講師(移行) (23702)	
研究協力者	堀 里奈 (HORI Rina)		